

No.	区分	委員名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
1	大気質	片谷委員長	・評価結果の記載において、準備書P4-1-137の長期的、短期的平均濃度などで「増加量はわずか」という言葉で済ませているが、増加量が何%程度など具体的に数字を使った説明をした方が、より住民に対して分かりやすい図書となるので留意すること。	・ご指摘を踏まえて、記載方法について検討します。 (事後回答) ・ご指摘を踏まえて、資料1-1のとおり評価結果の表に予測結果で示した寄与値とバックグラウンド濃度を追加します。
2	騒音	塩田委員	【追加意見】 ・準備書P4-2-18、P4-2-26及びP4-2-39に記載の予測式について、「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に記載されている予測式と異なるのはなぜか。 ・予測式が誤っている場合は、再度計算を行い、予測結果を確認すること。 ・引用した予測式を変形して使用している場合には、後から検算が可能となるように、その根拠を明確に記載すること。	(事後回答) ・ご指摘のとおり予測式の記載に誤植がありましたので、資料1-2のとおり訂正します。 ・予測結果は正しいことを確認しました。 ・引用した予測式の変形については、資料1-2のとおり③として合成式を追記し整合性を図ります。
3	騒音	塩田委員	【追加意見】 ・準備書P4-2-18及びP4-2-39～40に記載の計算式において、①の L_{wA} を②の $L_{wA,i}$ に代入して $L_{A,i}$ を算出するが、この $L_{A,i}$ は L_{Aeq} *でなければならない。したがって、 L_{wA} も L_{wAeq} でなければ整合性が取れないので、確認すること。	(事後回答) ・ご指摘を踏まえて、資料1-2のとおり③として合成式を追記し整合性を図ります。
4	騒音振動	塩田委員	【追加意見】 ・準備書P4-2-21の表4-2-15の予測結果及びP4-2-23の表4-2-19の評価結果については、「現況」と「事業による影響」及び「その合計としての予測結果」に分けて表を整理し、分かりやすく示すこと。（以下の騒音、振動の予測結果及び評価結果の表において同じ）	(事後回答) ・ご指摘を踏まえて、資料1-3に示すとおり予測結果及び評価結果の表に「事業による影響」を追加します。
5	騒音	塩田委員	【追加意見】 ・準備書P4-2-28の④回折条件について、工事用仮囲いの総延長距離は何mか。 ・騒音源と受音点間の経路差 δ はどの程度か。	(事後回答) ・工事用仮囲いは対象事業実施区域の全周で総延長距離は約600mです。 ・騒音源（建設機械1台）と受音点間の経路差は予測地点ごとにプログラムで計算しています。M地点の経路差は最小で0.055mで最大は0.080mです。
6	騒音	塩田委員	・施設から発生する騒音について、使用している予測式が簡易なため、実際の数値が危険側に出るおそれがある。音響パワーレベルを用いなくても予測が可能な式があるので、そちらを使用した方がよいのではないか。事務局を通じて予測式を提供するので検討いただきたい。	・施設からの騒音の予測については、環境省の生活環境影響評価指針に基づいて実施しています。 (事後回答) ・No.7のとおり予測した結果、安全側の数値であることを確認しました。
7	騒音	塩田委員	【追加意見】 ・準備書P4-2-49に記載されている[建物内壁から外壁への音の伝搬]式は、外壁近傍の騒音レベル/音圧レベルを算出するものであり、遠方の騒音レベル/音圧レベルの算出に利用するのであれば、建物外壁の面積を考慮する必要がある。一般的に利用されている式は別紙のとおりなので、こちらで計算した上で、予測結果を確認することを勧める。	(事後回答) ・資料1-4に示すとおりにご提供を受けた予測式で再計算したところ、現在の予測結果とほとんど差がみられず安全側に予測されていることを確認しました。

No.	区分	委員名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
8	騒音	塩田委員	<ul style="list-style-type: none"> 施設から発生する騒音について、煙突から発生する騒音が考慮されていない。 建屋の壁に換気装置が設置される場合は、そこが開口部となることを想定するなど、建物の設計を前提に予測すべきではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 煙突自体から騒音が発生することはないと考えていますが、音源となる排風機が施設内に設置されるのでそれを考慮して予測しています。 現段階では詳細設計までありませんが、管理室などの換気設備については外に音が漏れないようにフード設置等の対策がなされますので、予測対象とする必要はないと考えています。 (事後回答) 工場棟天井扇等も含め、騒音発生機器の位置を建物中心に設定して予測しています。
9	騒音	塩田委員	<ul style="list-style-type: none"> 施設からの騒音について吸音材の吸音率を考慮して予測しているが、その場合に必要となる周波数特性のデータを記載すべきではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 今回は周波数帯のデータがないので、安全側に立って吸音材の効果が一番小さい125Hzのデータを用いて予測しています。
10	騒音	塩田委員	<p>【追加意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 準備書P4-2-56の表4-2-45等に記載の「現況値」と、P4-2-57の表4-2-47に記載の「暗騒音レベル」の違いは何か。同じであれば、P4-2-51の④暗騒音で暗騒音レベルを用いているので、「暗騒音レベル」に統一した方がよいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> (事後回答) ご指摘を踏まえて、建設作業騒音・工場騒音については「暗騒音レベル」に統一します。
11	騒音	片谷委員長	<ul style="list-style-type: none"> 住民からの意見では騒音に関する懸念が強いが、ごみ収集車両を分散させれば騒音防止の効果が高いので、ごみ収集車両が短時間に集中する状況を避けることを環境保全措置として追加してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘を踏まえて、どのような対策が可能か検討します。 (事後回答) 予測条件においてごみ収集車両を均等に配分していることから、ご指摘を踏まえて環境保全措置に「搬入時間の分散」を追加します。
12	振動	塩田委員	<p>【追加意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 準備書P4-3-9の表4-3-10等に記載の「現況値」と、P4-3-15の表4-3-16等に記載の「暗振動レベル」の違いは何か。同じであれば用語を統一すること。 	<ul style="list-style-type: none"> (事後回答) 車両の走行による振動については「現況値」に統一します。
13	振動	塩田委員	<p>【追加意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 準備書P4-3-17の図4-3-5及びP4-3-29の図4-3-10の予測結果において、対象事業実施区域内と区域外における波動インピーダンス、土質の減衰定数が同じでなければ、コンターは同心円状にはならない。コンターを表示せず予測地点の結果のみの記載とするか、コンターを表示する場合は、計算条件を図の備考にきちんと記載するなど、誤解を受けないように十分配慮すること。 	<ul style="list-style-type: none"> (事後回答) 「地質の予測条件は、対象事業実施区域内と区域外における波動インピーダンス、土質の減衰定数が同じと設定し、最も振動が伝わる定数で予測しています。また、河川敷については、周辺の地層と異なることが想定されることから、破線のコンターで記載している」旨を図中に記載します。
14	振動	塩田委員	<ul style="list-style-type: none"> 施設の稼働による振動（準備書P4-3-26）については、工場・事業場の予測式を使用すべきである。予測式を提供するので検討いただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 検討しますので、予測式の提供をお願いします。 (事後回答) No. 15のとおり。
15	振動	塩田委員	<p>【追加意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 工場・事業場から振動の予測式について、距離rとr_0における波動インピーダンス、土質の減衰定数に変化がない場合は一般的に以下のとおりである。 $Lvr = Lvr_0 - 20 \log(r/r_0) - 8.68 \alpha (r - r_0)$ ここに、 Lvr : 振動源からr (m) 離れた点における振動レベル Lvr_0 : 振動源からr_0 (m) 離れた点における振動レベル r, r_0 : 振動源からの距離 (m) α : 土質の減衰定数 n : 幾何減衰定数 (表面波$n=0.5$, 実体波$n=1.0$, 複合$n=0.75$) なお、予測の際には、安全側で$n=0.5$を利用することが多いので、以下で計算する。 $Lvr = Lvr_0 - 10 \log(r/r_0) - 8.68 \alpha (r - r_0)$ 	<ul style="list-style-type: none"> (事後回答) 工場・事業場から振動の予測式については、距離rとr_0における波動インピーダンス、土質の減衰定数に変化がないことから同様の式を用いて計算しています。ご指摘を踏まえて、距離rとr_0における波動インピーダンス、土質の減衰定数に変化がないことを追記します。 対象事業実施区域とM地点の間には、しなの鉄道の盛土が存在し、J地点の間には長野自動車道の盛土が存在することから、表面波より実体波による影響が大きいと考えられますが、実体波の幾何減衰定数である1.0を予測条件とするのではなく、安全側の予測として複合波の0.75を採用しています。

No.	区分	委員名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
16	低周波音	塩田委員	<ul style="list-style-type: none"> 施設の稼働による環境保全に関する目標値（準備書P4-4-29）について、環境省の「低周波音問題対応の手引書」の数値を使用しているが、この数値は環境アセスメントに使用すべきでないとされていることを承知しているか。 手引書の数値を少し下げて90dBだから問題ないとするのは、もともと使用すべきではない数字が根拠としているので、周波数ごとに感覚閾値と比較して評価した方がよいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 手引書には比較するための一つの指標として92dBが示されており、それに対して今回は少し安全側の90dBを設定しています。（事後回答） G特性による予測は行っていますが、ご指摘を踏まえて、プラントメーカーから周波数帯のデータを入力し、資料1-5に示すとおり周波数ごとに予測を行い評価を追記します。
17	低周波音	塩田委員	<p>【追加意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 低周波音の周波数別の感覚閾値について「IS0226-2003」を引用して比較を行えばどうか。 	<p>（事後回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> ご指摘を踏まえて、「IS0226-2003」を引用して周波数別に比較しました。なお、評価については、評価結果が大きく変わらないことから、苦情等に対して低周波音によるものか判断する目安であることを明記した上で、環境省資料（「低周波音問題対応の手引書」2004年6月）に示される「心身に係る苦情に関する参照値」を用います。また、G特性音圧レベルによる評価についても、同様に苦情等に対して低周波音によるものか判断する目安であることを明記した上で、同資料による「心身に係る苦情に関する参照値」である92dB(G)を用います。
18	低周波音	塩田委員	<ul style="list-style-type: none"> 低周波音としてG特性を20Hz以下のG特性を使い、それを80Hzまでオーバーオールして予測しているのか。 G特性は超低周波の周波数領域であり、そこから開こえる周波数の範囲まで影響の有無を判断するためには、1Hz～100Hzまでの閾値の曲線と比較すればよい。例えば、20Hz以下では閾値以下だが63Hzや80Hzの騒音領域で閾値を超えている場合、その部分は騒音として評価すれば、低周波音では影響がないことになる。せっかく測定結果があるので、20Hz以下のG特性の評価と20Hz以上の領域の評価を分けて行えば、より分かりやすくなるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> プラントメーカーから低周波音のデータを入力しましたが、周波数帯のデータはなかったため、G特性の音とみなしてG特性でのみ予測しており、周波数帯ごとに予測している訳ではありません。（事後回答） 資料1-5に示すとおり10から50Hzまでの周波数ごとに予測を行い評価を追記します。
19	悪臭	片谷委員長	<ul style="list-style-type: none"> 悪臭防止対策としてエアカーテンと扉を併用する計画なのか。 車両の出入りする部分は、車が出入りする日中の時間帯は常時開放してエアカーテンで遮断するというのか。 	<ul style="list-style-type: none"> エアカーテンはプラットホームへの開口部に使う例が多く、扉はピットに投入する部分の悪臭防止のために設置する例があります。現時点ではどのような構造になるかは確定していませんが、その双方があります。 基本的にはエアカーテンで遮断しますが、高速のスライダーのシャッターのようなものもありますので、何を使用するかは今後検討します。
20	水質	小澤委員	<ul style="list-style-type: none"> 準備書P4-6-8の表流水のダイオキシン類の測定結果について、No.2の地点の数値が高めになっているので、土壌汚染と同様に、ダイオキシン類の異性体の詳細なデータを準備書の資料編に掲載してほしい。 	<p>（事後回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> ご指摘を踏まえて、資料1-6に示すとおりダイオキシン類の異性体の詳細なデータを資料編に追記します。
21	水質	小澤委員	<ul style="list-style-type: none"> No.2の地点は狭い水路のようだが、何か発生源的なものはあるのか。 工事中の排水は、No.2の丸い管を通じて出てくるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> No.2の地点は準備書P4-6-3の写真にある丸い管から出ている水を採取して調査しており、側溝に流れてきた水が最終的に集まる場所のため常時水がある訳ではなく、降雨時に何とか採取できる状況です。 工事中の排水ルートは決まっておらず、伊勢宮川に直接排水することも考えられますが、予測条件としてはNo.2を排水放流地点として設定しています。
22	水象	富樫委員	<ul style="list-style-type: none"> 準備書P4-7-2で地下水位の標高を6地点で測定しているが、千曲川の水面の標高は測っていないのか。 今から測ることはできないので仕方がないが、氾濫原の礫質の地盤では河川と地下水は繋がっており、河川水面の標高データがあれば、川から水が入り込んでいるか地下水が川に流出しているか分かったので少し残念である。 	<ul style="list-style-type: none"> 千曲川の水面については測定していません。
23	水象	富樫委員	<ul style="list-style-type: none"> 準備書P4-7-3の地下水変動グラフについて、平成25年5月のみ他の時期と比べて水位が下がっている原因は何か。 	<ul style="list-style-type: none"> 原因については不明です。1箇所のみでなく、すべての箇所が一律に下がっているようで、そのような時期があると捉えています。
24	水象	梅崎委員	<ul style="list-style-type: none"> 準備書P4-7-10に記載されている3つの影響要因のうち、建築物・工作物の存在による予測と結果が記載されていないので、説明してほしい。 その点が少し分かりにくいので、掘削による湧水等への影響としているが、建築物・工作物の存在を遮断物、遮蔽物としてどのように評価したのか記載すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 準備書P4-7-10に記載がありますが、予測項目をごみピット等の地下構造物の掘削工事としており、この中に建築物・工作物の存在を含めて予測しています。（事後回答） ご指摘を踏まえて、資料1-7のとおり存在・供用時による影響を修正します。

No.	区分	委員名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
25	水象	梅崎委員	・準備書P4-7-13の予測条件の設定の表の参考文献に記載されている「土質工学会」は、「地盤工学会」に改称しているため修正すること。また、資料自体も古いと思うので最新の資料に修正すること。	(事後回答) ・ご指摘を踏まえ、土質工学会が現在の地盤工学会であることがわかるよう追記します。 なお、帯水層の水位高さの設定根拠である「地下水位差の3倍」については、参考文献とした「土留め構造物の設計法」にかわる新たな資料が刊行されていないことから、資料の修正は行いません。
26	水象	富樫委員	【追加意見】 ・準備書P4-7-15の表4-7-11の「環境保全措置（工事による影響）」の内容は概念的な記述が主で具体性に乏しい。対象地域の特徴を踏まえ、より具体的な内容を入れた解りやすい記述に修正すること。	(事後回答) ・ご指摘を踏まえて、対象地域の地下水は冬季において若干低くなる傾向があることから適切な工事時期の検討、効果的な掘削工法等の検討、地下水を遮断させるため止水矢板の長さや地盤改良の深さ等の検討などを環境保全措置（工事による影響）に追記します。
27	水象	富樫委員	【追加意見】 ・準備書P4-7-16の下から7行目、「環境保全に関する目標との整合性が図られている」という評価は、前後の文章とのつながりが不明確なので、表現を改めてほしい。	(事後回答) ・ご指摘を踏まえて、前後の文章とのつながりが不明確な表現を修正します。
28	水象	富樫委員	・準備書P4-7-17に、千曲衛生センターが1日あたり1000～1500m ³ の地下水を利用していると記載されているが、これだけの水量をどのような理由で汲み上げているのか。 ・今回の予測評価にあたって工事中に地下水を揚水する期間はどのくらいになるのか。汲み上げている期間が長いほど影響圏は拡大していくので、最長でどの程度の期間になるのか教えてほしい。	・千曲衛生センターはし尿処理施設で比較的規模が大きいことから、詳しい用途は分かりませんが、標準脱窒素処理時の希釈水などに使用しているものと思われます。 ・準備書P1-25に工事計画を掲載しており、地下掘削については仮設工事と土木工事が対応するので、11ヶ月目から17ヶ月目までの約7ヶ月間になるかと思われます。
29	土壌汚染	小澤委員	・準備書P4-8-4の土壌調査結果について、調査地点Aのフッ素が0.8であり環境基準に対してぎりぎりの数字であるが、工事が実施される対象事業実施区域内であるため、もう少し状況を把握する必要があるのではないか。	・ご指摘を踏まえて、検討したいと思います。 (事後回答) ・資料1-8に示すとおり、昭和23年までの航空写真で地歴を調査しましたが、当時から畑であり、工場やその他の用途で使用されていないことを確認しております。この状況から対象事業実施区域内の土壌は汚染されていないと判断しており、追加調査は行いません。
30	地形・地質	富樫委員	・準備書P4-10-4以降に調査地点位置図と柱状図が3本分記載されているが、P2-86～89の地域の概況でも同じボーリングデータが記載されている。重複して分かりにくいので、焼却施設の計画のために行ったボーリング調査のデータは地形・地質の項目のみに記載した方がよいのではないか。	・ご指摘を踏まえて、重複資料については評価書において削除します。
31	植物	大窪委員	・準備書P4-11-9以降の表4-11-8に植物相の調査結果が記載されているが、確認種の記載は種数のみなので、もう少し詳しく記載する必要があるのではないか。この場所の植物相の特徴は、表の備考欄に「帰化植物」や「特定外来生物」が多く記載されているように、既に人が改変した外来生物が多い土地であるということなので、そのことを説明した上で、そのような場所で工事や事業が行われた際の環境影響に言及すべきではないか。	・ご指摘を踏まえて、帰化植物等の特徴についてコメントを加えます。 (事後回答) ・ご指摘を踏まえて、資料1-9のとおり帰化植物等の特徴について追記します。
32	植物	大窪委員	・植物の評価及び予測結果において、既に人の手が入った帰化植物が多く出現する植生なので、工事や施設の稼働による影響はほとんどないという記載である。対象事業地以外の千曲川河川敷では希少種が10種以上見つかっており、土地の改変により外来種が逸出して希少種に影響する懸念があるため、外来種の逸出を避ける対策が必要ではないか。 ・在来種中心の緑化も必要だが、計画地内にはセイタカアワダチソウ等が分布しており、そうした種を駆除する等の対策を検討していただきたい。 【片谷委員長】 ・緑化は人為的に植物を入れることなので、その際に余分なものを取り除くことにも配慮いただきたい。	・対象事業実施区域内では希少な植物が1種確認されていますが、ほとんど農地となっています。環境影響をできるだけ低減させるため、緑化を行う際には在来種を主体として行うことが、最大限の環境保全措置計画と考えています。 (事後回答) ・ご指摘を踏まえて、土地造成の前後で外来種を除去するなどの環境保全措置を追記します。

No.	区分	委員名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
33	植物	大窪委員	<ul style="list-style-type: none"> ・準備書P4-11-24の植物群落の調査結果について、全体の植生の状況が分かる文章を入れて、分かりやすい記載としてほしい。 ・植生と群落の記載が対応していないので、植生の中に群落の名前を入れながら説明しないと分かりにくいのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・準備書P4-11-22に植生についてまとめており、群落も踏まえてコメントを記載しています。 ・ご指摘を踏まえて、文章を追記します。 <p>(事後回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘を踏まえて、資料1-10のとおり全体の植生の状況が分かる文章を追記します。
34	植物	大窪委員	<ul style="list-style-type: none"> ・緑化について、準備書P4-11-44の「(2)環境保全に関する目標との整合性に係る評価」で「周辺植生の構成等」を「周辺植生の構成種等」に修正すること。 ・緑化においては構成種という種レベルで在来種を使用するのではなく、遺伝子レベルの生物多様性の保全に配慮して、地域の個体群を使用することを検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「構成種」に修正します。 ・ご意見を参考に、どういった在来種を入れるのか検討したいと思います。 <p>(事後回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘を踏まえて、対象地域の在来種による緑化を行う計画である旨を追記します。
35	動物	中村寛志委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ジューサンホシテントウについて、たまたま飛んできたとの記載になっているが、対象事業実施区域内にはアシヤヨシあるいは桃の木があるか。この種はモモコフキアブラムシを食べる特殊な昆虫で、県内では松本市、大町市でしか確認されておらず、千曲市では初めての確認である。対象事業実施区域内に桃の木等があれば、区域内外の割合を比較して、区域内の桃の木を移植する必要があるか検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺の河川敷内に多くの桃の木があるが、対象事業実施区域内ではブドウが多く一部で桃の木が栽培されています。 <p>(事後回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植物の調査範囲内においては、約6.2haで桃が栽培されています。対象事業実施区域内では、約0.1haの桃が栽培されており、調査範囲と比べた割合は約1.6%で小さいことから桃の木の移植の必要性はないと考えられます。
36	動物	中村寛志委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ナミギセルについて、代償措置をとって生息適地へ移植する場合は、軻良根古神社の枯葉へ移植するのが適当である。 ・代償措置を実施する場合は事後調査が必要になると思うがいかがか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ナミギセルについては、対象事業実施区域の境界線付近で見つかっているもので、工事前に現地調査を行い、生息が確認できれば軻良根古神社に移植します。 ・現地調査で生息されていることが確認され、移植を行う場合は事後調査を実施します。
37	動物	中村寛志委員	<ul style="list-style-type: none"> ・カジカガエルとアカザについて、この2種は冷たい水温に適している動物である。いずれも区域外の千曲川で見つかっているが、伊勢宮川の放水口の上流側と下流側のどちらで見つかったのか。 ・下流側で見つかったカジカガエルは千曲市版レッドデータのCRとENに該当するので、水温が高い放流水による影響について注目してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カジカガエルは放流口の下流側、アカザは放流口の上流で確認しています。 <p>(事後回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事中は土地造成に伴う濁水（雨水）と掘削に伴う地下水の揚水を排水する計画ですが、千曲川の流量に比べた工事中の排水量はわずかであり、また、地下水については、カジカガエルの生息が確認されている夏季においては河川水温より地下水温のほうが低いことから、地下水の揚水に伴う放流水の影響はないものと考えられます。
38	生態系	中村寛志委員	<ul style="list-style-type: none"> ・準備書P4-13-5の図4-13-2において、ヤマトシジミは樹林地の昆虫ではなく、カタバミを食草とする草地性の昆虫なので修正してほしい。樹林地の昆虫としては、軻良根古神社で見つかっていると思われるゴマダラチョウが適当ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・確認して修正します。 <p>(事後回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘を踏まえて、生育・生息環境別食物連鎖による生態系模式図のヤマトシジミをゴマダラチョウに修正させていただきます。
39	動物	中村雅彦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・チョウゲンボウについて、2羽でなく1羽で確認されているが、確認されたのは雄か雌か、若鳥なのか情報はるか。雄の若鳥であれば、将来はつがいになって繁殖する可能性があり、非常に重要なポイントなので確認してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手元にデータがないので、持ち帰って確認します。 <p>(事後回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チョウゲンボウについては、同一個体の種ではなく、雄、雌、雄の若鳥及び幼鳥も確認しています。しかしながら、1年間（秋、冬、春、繁殖期、夏）の調査を通じて調査範囲内の営巣は確認されていません。
40	動物	中村雅彦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・準備書P4-12-58の2行目に「チョウゲンボウはラインセンサスの結果から鳥類の多い千曲川河川敷を利用する可能性がある。」との記載があるが、ラインセンサスでは観察する距離が長くなればなるほど出現数が多くなる。千曲川河川敷と対象事業実施区域内で全く同じ距離であればこの記載でよいが、河川敷の方が長ければ当然数は増えることになるがどのような状況か。 ・ポイントセンサスの調査結果ではどうなっているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ラインセンサスの調査結果から鳥類の確認数を把握しやすかったため、一つの例として記載しましたが、ご指摘を踏まえて修正します。 <p>(事後回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラインセンサスについては、生態系のP4-13-6の表4-13-1で確認数を把握していますが、100m当たりの個体数として把握しています。なお、資料1-11に参考資料としてポイントセンサスの結果をお示しします。

No.	区分	委員名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
41	景観	片谷委員長	・フォトモンタージュについて、建物が白く描かれていて非常に目立つ状況である。評価書の段階までに色彩の検討が間に合うようならば、色が付いた図を掲載してほしい。	(事後回答) ・評価書の段階までに施工業者を決定できないため、色彩を考慮したフォトモンタージュの作成は困難です。なお、色彩については関係地区や千曲市と協議しながら検討してまいります。
42	触れ合い活動の場	陸委員	・準備書P4-15-1の表4-15-1では調査頻度が年2回となっているが、表4-15-3の調査期間の日付では3回行っているので訂正すること。また、調査期間と一緒に天候を記載すれば参考になるので、記載してほしい。	(事後回答) ・ご指摘を踏まえて、調査回数を3回に訂正、調査日の天候を追記します。
43	触れ合い活動の場	陸委員	・準備書P4-15-9以降に評価方法が記載されているが、評価の仕方がすべて植物、動物、生態系等への影響による間接的な評価になっている。P4-15-1の調査方法に「聞き取り調査」が記載されているので、聞き取り調査の結果を掲載し、その結果も合わせた評価を行うべきではないか。そうであれば、対岸に施設ができたり工事が行われたりすることに対する聞き取りは行っていないことを、明記してほしい。	・聞き取り調査については、サイクリングロードの利用者へ利用頻度の聞き取りを行ったもので、サイクリングロードの利用者が多いという程度の情報のみであるため、定性的な評価にならざるを得ないと考えています。 (事後回答) ・ご指摘を踏まえて、聞き取り調査の方法及び結果を追記します。
44	温室効果ガス等	片谷委員長	・準備書P4-17-12で、計画施設で発電するので電力使用量がマイナスになり、CO ₂ も削減されるとの記載になっているが、計画施設から排出されるCO ₂ と発電により削減されるCO ₂ は分けて記載した方がよい。売電分を引いた数字ではなく、純粋に施設から排出されるCO ₂ の排出量を記載して、さらに、売電分がすべて火力発電所の発電量の削減に繋がったと仮定すればこの程度のマイナスになる、というのが本来の説明の仕方ではないか。そうしたことを記載して、住民により分かりやすい説明にしてほしい。	・既存施設におけるごみを燃やす際のCO ₂ 排出量相当は新規施設でも排出されることを前提として、ごみを燃やす際の助燃剤使用量と電気使用量の増減の比較により評価を行っています。ご指摘を踏まえて、記載について工夫します。 (事後回答) ・ご指摘を踏まえて、資料1-12のとおり計画施設から排出されるCO ₂ と発電により削減されるCO ₂ を分けて記載します。
45	日照阻害	片谷委員長	・河川側に影ができるので影響は回避できるということだが、住宅への影響がないことは分かったが、農地は日照が必要なのであまり長い時間影になると問題になる可能性がある。影ができるところに農地はないのか。	・準備書P4-18-18に夏の時期の影を示していますが、ほとんど計画地の中に影が収まるような状態になっています。冬場については影が伸びるので、農地にも影がかかりますが、通常の状態については影はあまり伸びないと考えています。
46	その他	佐藤委員	・工事中や施設の稼働後において、農道対策だけでなく、代替地や周辺で農業を安全に営み続けるための配慮についてはどのように考えているのか。 ・回答のあった点について、文章として入れた方がよいのではないかと。	・対象地域内の方が、引き続き営農したい場合の配慮については、まだそういった御要望を具体的にお聴きする段階ではありませんが、今後、御希望に添うような対応をしてまいりたいと考えています。 (事後回答) ・今後、対象地域内や周辺の方のお話をお聞きし、配慮してまいりたいと考えています。